

# STEP!

3月  
March

宇美町立宇美南中学校  
第2学年通信 第49号  
文責 大田・秋山  
令和4年 3月23日(水) 発行

いよいよ3学期も明日が修了式で、1年間のまとめの日となります。そこで今日は、いつもと趣向を変えて、4月から3年生になるみなさんへ、これからの人生を生きていくためのヒントになる二人の方のお話を紹介します。中学生のみなさんでも十分理解できる内容です。

3年生を前に、春休みにでもぜひ、読んで心に栄養を届けてください。



## 人間のプロになれ

杉原 輝雄（すぎはら てるお）氏（プロゴルファー）

ゴルフにおける勝者は一つの試合にたった一人しかいない。だからこそ、無数の負けとどう向き合うか、また悲観的な状況にあっても、決して腐らず一所懸命に取り組むことが大切になってくるのである。

そのことを私に教えてくれたのは、オーストラリアのグラハム・マーシュという選手だった。彼はもともとゴルフが下手で、しばらくして日本ツアーに参戦できるようになったものの、プレーの運び方が非常に鈍（にぶ）く、他の選手やギャラリーたちをいつも苛々（いらいら）させていた。

約三十年前に名古屋で開催された中日クラウンズで彼といっしょに回ったとき、初日、二日目とも成績が振るわず、彼も私も予選落ちは確定と言える状態だった。しかしマーシュは懸命だった。十八番ホールのグリーン上で、入ろうが入るまいが大した意味のないパーパットを沈めようと、彼は入念に芝目を読んでいたのである。一方、勝ち目のない試合だと踏んでいた私は、彼のプレーを苛（いら）立ちながら眺（なが）めていた。

しかしそのパーパットを着実に沈めたマーシュは、翌週ぐんぐんと調子を上げ、予選を通過するどころか、見事優勝を決めてしまったのである。その日の調子が良かろうが悪かろうが、目の前にある一打一打を一所懸命に打たなければいけない、常にベストを尽くさなければいけないと教わった出来事だった。

ゴルフは努力をしさえすれば、いい結果が得られるものではないが、**どんな時でも一所懸命に取り組んでいないと、よい結果にはつながりにくい。その時その時において常にベストを求められるのは、人生においても全く同じではないだろうか。**

思えば小学校の頃からゴルフの世界に携（たずさ）わらせていただき、いろいろな方にお世話になった。昔は今のように試合数が多くなく、出場したくてもできなかったことがたくさんあった。今のゴルファーの多くは、小さな頃から自分のクラブを与えられ、試合に出られることも、練習をさせてもらえることも当然のように思っている。

もっとも、私自身も気がつくのが遅かったが、誰のお陰でゴルフをしていただけるのかと考えた時、私は試合後にお世話になったスポンサーやコースの支配人宛（あて）に礼状を出すことにした。四十歳を過ぎた頃だっただろうか。

私は人は皆、生まれたときから“人間のプロ”になるという使命を担(にな)っているのではないかと考えている。人間であれば心があるのだから、あいさつもするし、相手への思いやりも当然もつことだろう。何も特別なことは必要なく、当たり前のことを当たり前にできるようになれば、その人は人間として立派なプロなのだ。

ゴルフに限らず、その世界の上位クラスで活躍をする人は一流の素質か、それに近いものを持っている。しかし人間として一流でなければ、その人の値打ちは半分以下になってしまう。人間のプロ。病気や年齢の壁に立ち向かい、自らに挑み続けることもその条件の一つであると思う。

一生懸命にならな損

あきらめたらあかん

杉原輝雄

## お星様がいちばん輝くときって知ってる？

藤代 圭一（ふじしろ けいいち）氏（「しつもんメンタルトレーニング」代表）



「お月様やお星様がいちばんきれいになる時、知ってる？

それはお空が真っ暗なときなんだよ。」

幼稚園に通う女の子から教えてもらいました。その女の子は、目をきらきらさせて、とても嬉しそうに僕にそう教えてくれたんです。

ケガをした時、思うように結果が出ない時、伸び悩んでいる時、スランプの時、怒られた時、うまく行かない時、失敗した時、ついつい自分を責めてしまうことってありますよね。

「なんでうまくいかないんだ」

「私はダメなんだ」

けれど、真っ暗な夜になるとお月様や星たちが輝くように、失敗や挫折、ケガをした経験があるからこそ、さらに輝くことができるようになります。

**光のすばらしい輝きはその影がなければ存在しえない。**

**人生は一つの全体であって、善も悪も共に受け入れられねばならないのである。**

— ウィンストン・チャーチル

北海道の十勝に行かせて頂いた時のこと。

街頭が全くない草原に走る一本道で見た無限に広がる星を忘れられません。

こんなの「プラネタリウムでしか見たことない！」といった世界です。

東京のように深夜も光が絶えることの無い空間では、

見られない、気づけない世界があります。

**暗闇がなければ、光を見いだすことが難しくなってしまう。**

言い換えれば、ケガをしたからこそ、スランプに陥(おちい)ったからこそ、

うまくいかないからこそ、新たな自分に成長するチャンスがあるはずで。

今できることを探しましょう。